

## 和而不同

《事件は会議室で起きてるんじゃない！現場で起きてるんだ！》某映画での有名なセリフだ。感覚のズレ、いわゆる“温度差”はなぜ生じてしまうのか。それは「守ろうとしているもの」が異なるからであろう▼コロナ禍が叫ばれてか

ら一年。社会の仕組みの厳しさと脆（もろ）さがより顕著なものになってしまった。本来真つ先に守られるべきはずのものが、守られるべき時に守られない。理由は明確だ。守る（仕組みを整える）側に心の底からその意志がないからである。何より救急車が“救急車”ではなくなくなってしまっている現実がその結果に他ならない▼医療現場などまさに直（じか）の実態や感覚と、それらを俯瞰（ふかん）するいわゆる会議室の視点、ここに立場の優劣をつけてはならないはずだ。不測の事態は、互いの都合を待ってはくれない。「今、何をすべきか」、決めるべきことを、決めるべき人が、決めるべき時に決める。本当に相手を思い、守る意識があるのならば、その決断（と説明）に自己の利益（保身）を差し置き覚悟がおのずと浮かび上がってくるはずだ▼《仕事は客の為にするもんだ。ひいては世の中の為にする。その大原則を忘れたとき、人は自分の為だけに仕事をするようになる。自分の為にした仕事は、内向きで、卑屈で、醜く歪んでくる》ドラマ『半沢直樹』のワンシーンである。さあ今は。